

埼玉県における高校献血の実施状況

1 過去5年間の状況

- ・ 県教育委員会、血液センターの働きかけで、国公立高校における校内献血実施校は緩やかな増加傾向にある。
- ・ 知事と教育長からの校内献血推進の依頼を受け、校内献血の実施を計画的に学校行事に位置づけ、可能な学校の日程調整を県教育委員会、血液センターで調整をした。

		国公立高校	私立高校	計
平成 15 年度	実施校	46	32	78
	受付数	3,587	7,016	10,603
	献血数	2,850	5,510	8,360
	400ml	568	698	1,266
平成 16 年度	実施校	44	32	76
	受付数	3,583	6,947	10,530
	献血数	2,842	5,587	8,429
	400ml	683	544	1,227
平成 17 年度	実施校	45	34	79
	受付数	3,038	6,702	9,740
	献血数	2,374	5,397	7,771
	400ml	582	526	1,108
平成 18 年度	実施校	51	35	86
	受付数	4,404	5,428	9,832
	献血数	3,399	4,193	7,592
	400ml	409	730	1,139
平成 19 年度	実施校	82	35	117
	受付数	4,028	5,749	9,777
	献血数	2,938	4,286	7,224
	400ml	495	651	1,146

2 出前講座の生徒の感想等

- ・ 保健医療部薬務課と教育局保健体育課の連携により、「献血に関する出前講座」を実施している。
- ・ 19年度は、11校（小学校5校・中学校1校・高校5校）が授業や保健委員会活動などで実施した。
- ・ 血液疾患についての理解が深まった。献血をする前にお話を聞いてよかった。献血するのに不安が薄らいだ。などの「よかった」という感想が大半だった。

3 指導案（例）について

全学校に通知し、ホームページに掲載（別紙）

教保体第62号
平成19年4月11日

各県立高等学校長 様

埼玉県教育委員会教育長

高校生への「献血に関する指導案(例)」について(通知)

高校生献血の推進については、平成19年4月4日付け薬第12号で知事と連名で依
協力を依頼したところです。

また、献血の重要性の普及啓発については、平成18年12月定例県議会において、
「献血の重要性について保健体育の時間などを通じてきちんと時間を確保して教えるべ
きと考えるが、本県における現状と今後の取り組みについて伺いたい」との質問に対し
て、「今後は、献血の意義や重要性について、生命の相互扶助やボランティア活動の観
点から、保健体育や特別活動の時間などで取り上げるよう働きかけてまいりたいと存じ
ます。」と答弁し、また平成19年2月の予算特別委員会において「県立高校における
献血の実施率は私立高校に比べて低いため、県立高校における献血の意義などに関する
教育が必要と考えるが、今後の取組について伺いたい。」との質問に対して、「各高校に
対し、保健体育の時間で、献血の意義や重要性についての意識を高めるため、具体的な
指導のモデルを示して、積極的に取り組むように指導して参りたい。」と答弁しました。

これらのことを踏まえ、県教育委員会では、本年度、全ての県立高等学校の「保健体
育科」の授業時間において「献血」に関して授業を行っていただけるよう、別添のとおり
『高校生への「献血に関する指導案(例)」』を作成しましたので、御活用くださるよ
うお願いします。

担当；県立学校部保健体育課
健康教育担当 謝 村^{しゃむら}

TEL ; 048 - 830 - 6963

FAX ; 048 - 830 - 4971

Eメール ; a0146278@pref.saitama.lg.jp

高校生への「献血に関する指導案（例）」

平成 1 9 年 4 月

埼玉県教育委員会

保健体育科（科目保健）学習指導案

1 単元名 現代社会と健康 （エ）様々な保健活動や対策（献血の意義や重要性）

2 本時の学習と指導

(1) ねらい

- ・ 日本赤十字社の活動について、仲間の意見を聞いて、自分の考えをまとめたり発表したりできる。 【関心・意欲・態度】
- ・ 献血の基礎知識について、日常生活にあてはめて考えたり、資料をもとに、意義や必要性について調べたり、整理できる。 【思考・判断】
- ・ 行政や民間機関・国際機関などが行う様々な保健活動や対策について理解できる。 【知識・理解】
- ・ 献血は16歳から実施できることを理解できる。 【知識・理解】
- ・ 献血に協力してくれる若い人が減っていることが問題であり、献血は相互扶助（ボランティア）の精神で成り立っていることを理解できる。 【知識・理解】

(2) 準備 教科書、資料、ワークシート

(3) 展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点・評価規準	評価方法 資料等
導入 10分	1 身近な健康診断について確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><発問> みなさんが中学校や高校において受けてきた健康診断はどんなものがありましたか？</p> </div> <p><予想される生徒の反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 内科検診 ・ 身体測定 ・ 歯科検診 ・ 心臓検診 ・ 耳鼻科検診 	思いついたことを、自由に発表するようにさせる。 学校において実施されている各検診等は学校保健活動の一部であることを理解させる。	ワークシート
	2 行政による保健活動について知る。 <p><板書事項></p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>わが国では、出生から高齢にいたるまでのライフステージやライフスタイルに対応したさまざまな保健活動がおこなわれている。</p> <p>母子保健活動（妊娠後～乳幼児期）</p> <p>学校保健活動（幼稚園～高校・大学）</p> <p>産業保健活動（労働者）</p> <p>老人保健活動（70歳以上）</p> <p>地域保健活動（地域住民）</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><発問> 他に、どんな保健活動があるか知っていますか。</p> </div>	学校保健活動以外の行政による保健活動にはどんなものがあるか理解させる。	
	3 民間機関や国際機関の保健活動について知る。	これらの保健活動は行政による活動であり、その他に民間機関として日本赤十	

	<p>・ 日常の生活を振り返り、気が付いたことを発表する。</p> <p>< 板書事項 ></p> <p>民間機関による保健活動 ・ 日本赤十字社 ・ N G O (非政府組織) 国際機関による保健活動 ・ W H O (世界保健機関) ・ U N I C E F (国連児童基金) ・ U N E P (国連環境計画)</p>	<p>字社や N G O (非政府組織) の活動が行われていることを理解させる。</p> <p>国際機関としては W H O (世界保健機関) や U N I C E F (国連児童基金) や U N E P (国連環境計画) などの活動があることを知る。</p>	
展 開 37 分	<p>4 日本赤十字社の活動内容について理解する。</p> <p>< 発問 > 日本赤十字社は、どのような活動をしているか知っていますか。</p> <p>< 板書事項 > 《日本赤十字社の活動》 災害救護 医療事業 国際活動 看護師等養成 血液事業 講習普及事業 青少年赤十字 (J R C) 社会福祉事業</p> <p>5 血液事業である献血の現状と課題について学習する。 ・ 5 ~ 6 人でのグループ学習</p> <p>< 発問 > 今、「献血」の一番大きな問題は何だと思えますか？</p> <p>・ ブレインストーミングで意見を出させる。 < 予想される生徒の反応 > 血液が足りない 汚染された血液がある 献血をする人が少ない エイズ 輸血</p> <p>教師の話を書く。 (献血の意義について)</p> <p>< 教師の話 > 血液は人工的に造ることができないものであり、病気や怪我で血液を必要としている人に血液を届けるためには、献血への協力が必要です。</p>	<p>自分の今までの知識をもとに、予想し、発表する。</p> <p>日本赤十字社の活動内容を知り、その中の血液事業の一環として献血が行われていることを理解させる。</p> <p>日本赤十字社の活動について、仲間の意見を聞いて、自分の考えをまとめたり、発表しようとしている。</p> <p>【 関心 ・ 意欲 ・ 態度 】</p> <p>血液事業として、献血を実施していることを説明する。 あらかじめ決めたグループ (男女混合) に、すばやく席を移動させる。</p> <p>できるだけ多くの意見を出すよう伝える。</p> <p>机間指導により、意見があまりでないグループには直接アドバイスする。</p> <p>献血に協力してくれる若い人が減っていることが今の大きな問題であることを知っている。 【 知識 ・ 理解 】</p> <p>時期によっては血液が不足することがあることを知らせる。 献血が少なくなっている現状を知らせる。</p>	献 血 者 減 少 の グ ラ フ 発 表 の 様 子

<p>6 献血の基礎知識について学習する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5～6人のグループ学習 ・ 教科書や資料をもとに次のことについて調べる。 (各グループ1項目) 	<p>献血についての基礎的な事柄について理解させる。</p> <p>献血の基礎知識について、日常生活にあてはめて考えたり、資料をもとに、調べたり、整理している。【思考・判断】学習が進まないグループには、資料を見るポイントを示す。</p>	<p>献血リーフレットワークシートの記述</p>
<p>7 学習したことをまとめ、発表する。</p> <p><調べる内容></p> <p>(1) 献血の種類について</p> <p>(2) 献血のできる年齢</p> <p>(3) 献血に必要な時間</p> <p>(4) 献血のできる場所</p>	<p>グループの発表に、その都度教師が必要事項を付け加えながら進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 献血の種類には全血献血と成分献血があり、全血献血には 200ml 献血と 400ml 献血、成分献血には血漿成分献血と血小板成分献血がある。 ・ 献血には採血基準がある。 《採血基準》 ・ 200ml 献血 16歳から 男性 体重 45kg 以上 女性 体重 40kg 以上 ・ 400ml 献血 18歳から 男性女性とも体重 50kg 以上 ・ 成分献血 18歳から 男性 体重 45kg 以上 女性 体重 40kg 以上 ・ 比重 献血は16歳から実施できることを知っている。【知識・理解】 ・ 採血にかかる時間は、人によって違うが 200ml 献血、400ml 献血で 20分程度であり成分献血は採血量に応じて 40～90分程度である。 ・ 献血のできる場所は次の場所である。 献血ルーム 都市部を中心に交通の便の良いところにあり、献血者がリラックスできる設備が備わっている。 献血バス(街頭献血) スーパーや駅前など多くの人が集まる場所で献血の呼びかけを行う。 その他(事業所単位) 学校や会社単位で、その学校や会社にいる人を対象に臨時の献血会場とする。 本県には7箇所の献血ルームがあり、本校に最も近いのは 駅にあることを教える。 	<p>ワークシートの記述</p>

	<p>(5) 献血の手順</p> <p>(6) 献血後の注意事項</p> <p>教師の話を書く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 献血をすることにより、その結果から自分の健康管理にも役立つことを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 献血は次のような手順で行われる。 《献血の手順》 献血受付 問診票の記入 血液比重測定、血液型事前判定、問診および血圧測定 献血 休憩 献血カードの受け取り ・ 採血中や採血後はまれにめまいや皮下出血などの副作用が発生することがあるので、献血をした後は、次の注意事項を守るように理解させる 《注意事項》 献血当日は、激しいスポーツを避けること 水分を十分に補給すること 重いものを持ったり身体に力を入れすぎないようにすること。 針の跡をもんだり、こすったりしないこと さらに成人であれば 採血直後の飲酒は避けること 自動車などの運転をする時は十分な休憩をとること など 教師の体験や献血後の通知等の内容を伝え、献血についての理解を深めさせる。 	資料
<p>ま と め</p> <p>3 分</p>	<p>8 健康の保持増進を図るために、日本赤十字社など民間の諸機関や国際機関などにより、様々が活動が行われていることを確認する。</p> <p>《教師のまとめの話》</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯を通じて健康な生活を送れるように、ライフステージやライフスタイルに応じて、様々な保健活動が行われています。 ・ また、血液は人工的に造ることができないもので、献血を通じて、みんなが健康な生活を送れるように、時には、自分が協力を求めたり、困っている人を助けることができます。 </div>	<p>様々な保健活動がヘルスプロモーションの考え方に基づいていることを理解させる。</p> <p>様々な保健活動が自分たちの健康の保持増進を図るために行われていることを知っている。 【知識・理解】</p> <p>献血をとおして、助け合いの精神や命の大切さを考えさせるようにする。</p>	<p>ワークシート</p> <p>ワークシートの記述内容</p>

ワークシート（さまざまな保健活動や対策）

1年 組 番 _____

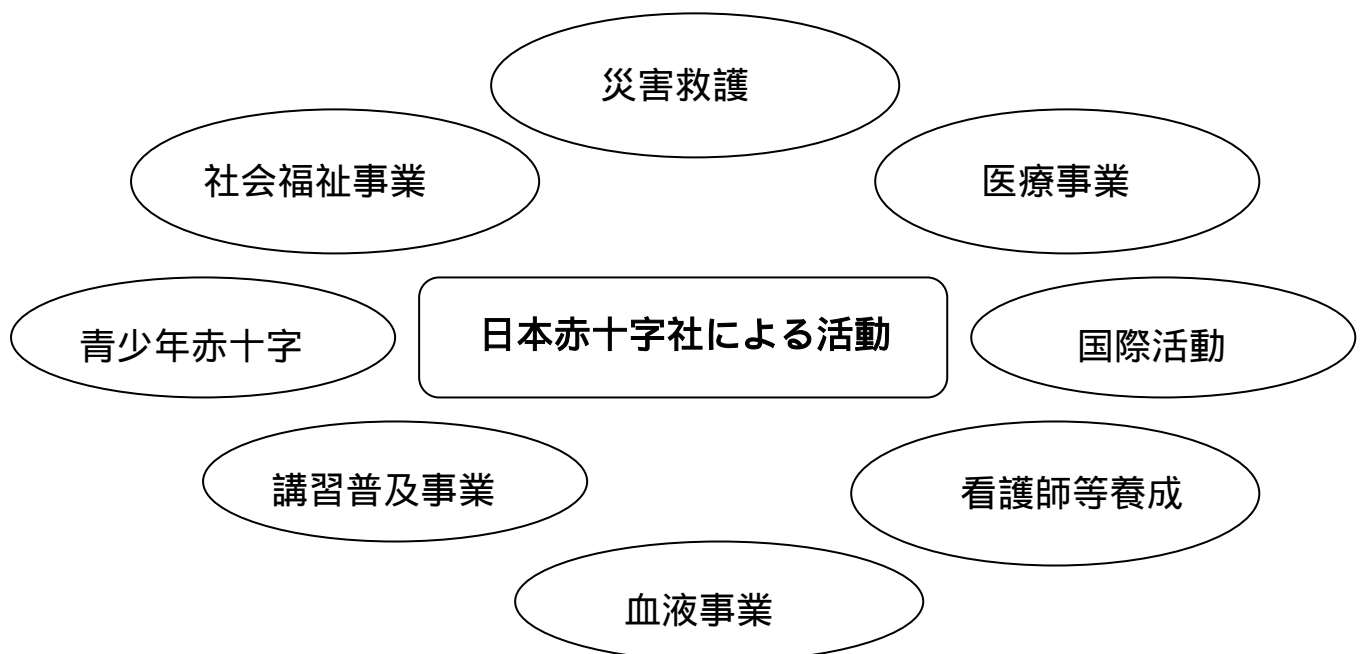
私たちの身近なところで様々な保健活動がおこなわれている。

1 行政による保健活動

母子保健活動	（妊娠後～乳幼児期）
学校保健活動	（幼稚園～高校・大学）
産業保健活動	（労働者）
老人保健活動	（70歳以上）
地域保健活動	（地域住民）

2 民間機関による保健活動

（1）日本赤十字社による活動



（2）NGO（非政府組織）による活動

人権・環境・平和などの諸問題に「非政府」「非営利」の立場で解決に取り組む民間組織

(3) 国際機関による活動

(ア) WHO (世界保健機関)

World Health Organizationの略
国際連合の活動のうち、保健衛生分野を担当している。感染症や薬物乱用の対策、健康教育の推進、衛生統計の作成、医薬品の供給など広い分野にわたって活動している。

(イ) UNICEF (国連児童基金)

第二次世界大戦の犠牲となった子どもの救済を目的として発足した。現在は、開発途上国の子どもの栄養改善や病気の予防のために活動している。

(ウ) UNEP (国連環境計画)

1972年に国連人間環境会議で決定・設立された「人間環境宣言」および「行動計画」を実施するための機関。地球環境問題の深刻化や活動も重要視され、オゾン層保護のウィーン条約策定をはじめ地球温暖化防止や有害廃棄物の越境移動問題でも中心的な活動をしている。

3 献血について

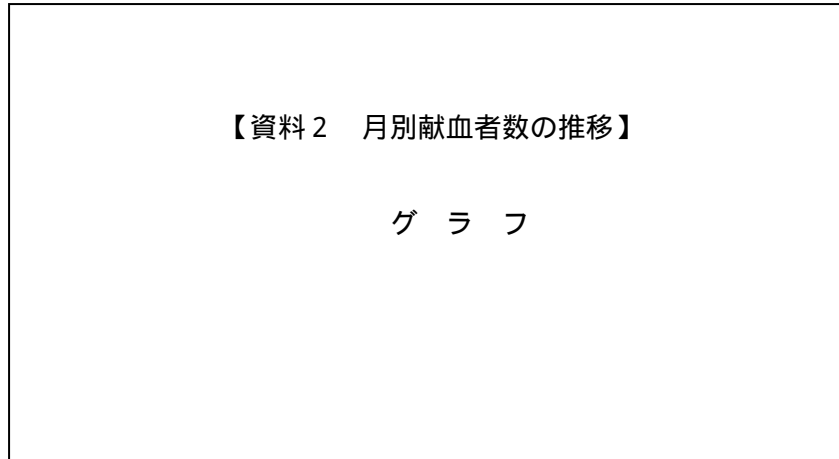
(1) 献血者の推移について

【資料1 (年別・年齢別) 献血者数の推移】

グ ラ フ

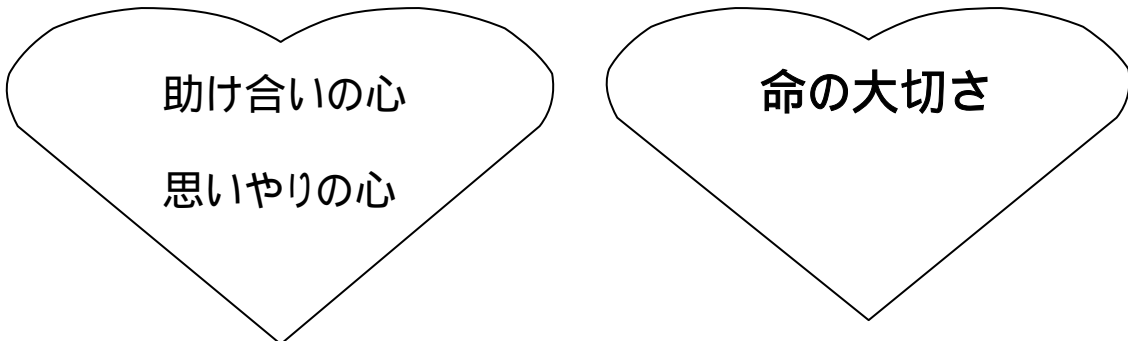
献血に協力してくれる若い人たちが減っていること。
近年の献血者推移を見ても、歳以下の献血者が減少していることがわかる。

(2) 月別献血者数の状況について



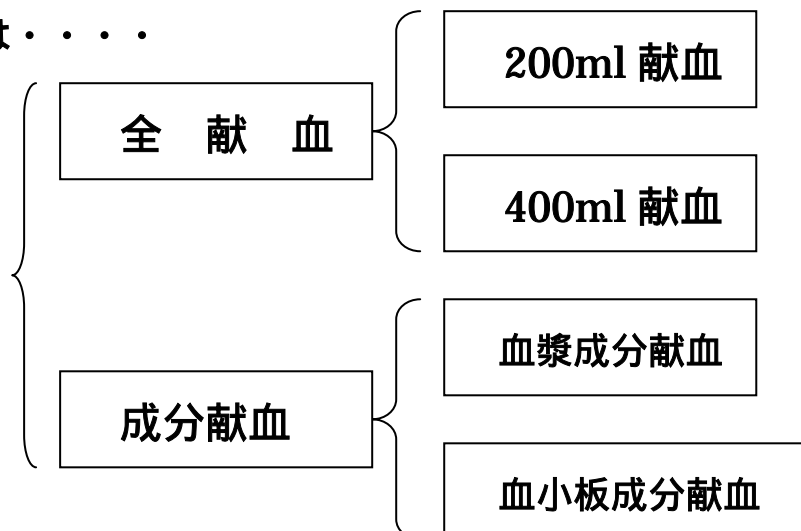
平成 年 月に血液が非常に少なくなった。
例年12月から3月にかけて、風邪の流行などにより献血者数が減少するため、輸血用血液が不足します。

血液は人工的にはつukれない



(3) 献血の基礎知識

献血の種類は・・・



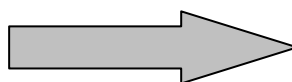
献血のできる年齢は・・・

【採血基準の主なもの】

		200ml 献血	400ml 献血	成分献血
年 齢		<u>16 歳から</u>	18 歳から	18 歳から
	男	45 k g 以上	50 k g 以上	45 k g 以上
女	40 k g 以上	40 k g 以上		

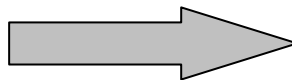
採血にかかる時間は（人によって個人差がある）・・・

200ml 献血・400ml



20 分程度

成分献血



40 ~ 90 分程度

献血のできる場所は・・・

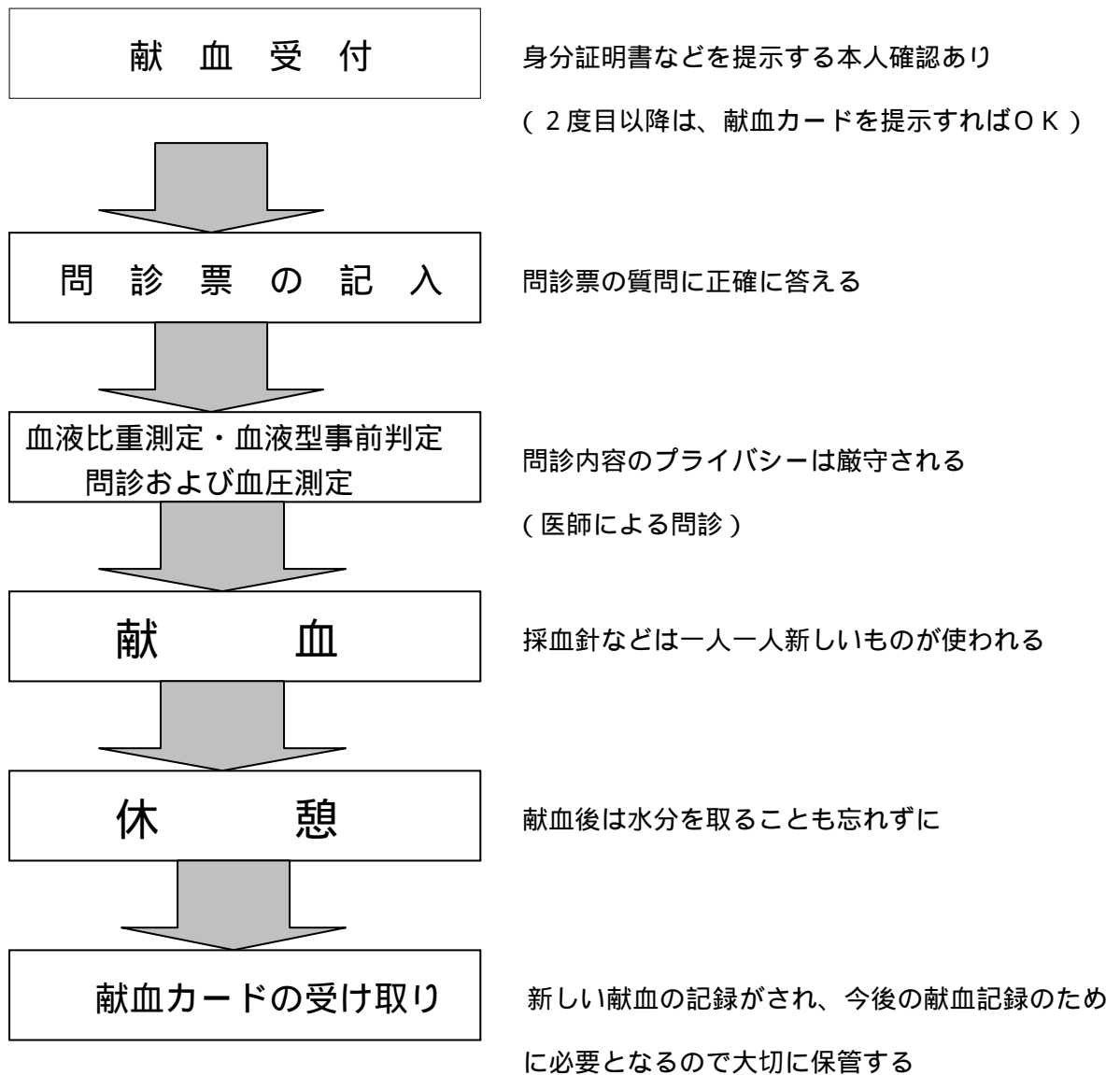
献血ルーム

都市部を中心に交通の便のよいところにあり、献血者がリラックスできる設備が備わっている。本校の最寄りの献血ルーム（ 駅 ）

献血バス

多くの人が集まる場所。（学校や会社、スーパー店頭、駅前など）

献血の手順は・・・



献血後の注意事項

- 献血当日は激しいスポーツは避けること
- 水分を十分に補給すること
- 重いものを持ちたり、身体に力を入れすぎないようにすること
- 針の跡をもんだり、こすったりしないこと

成人であれば・・・

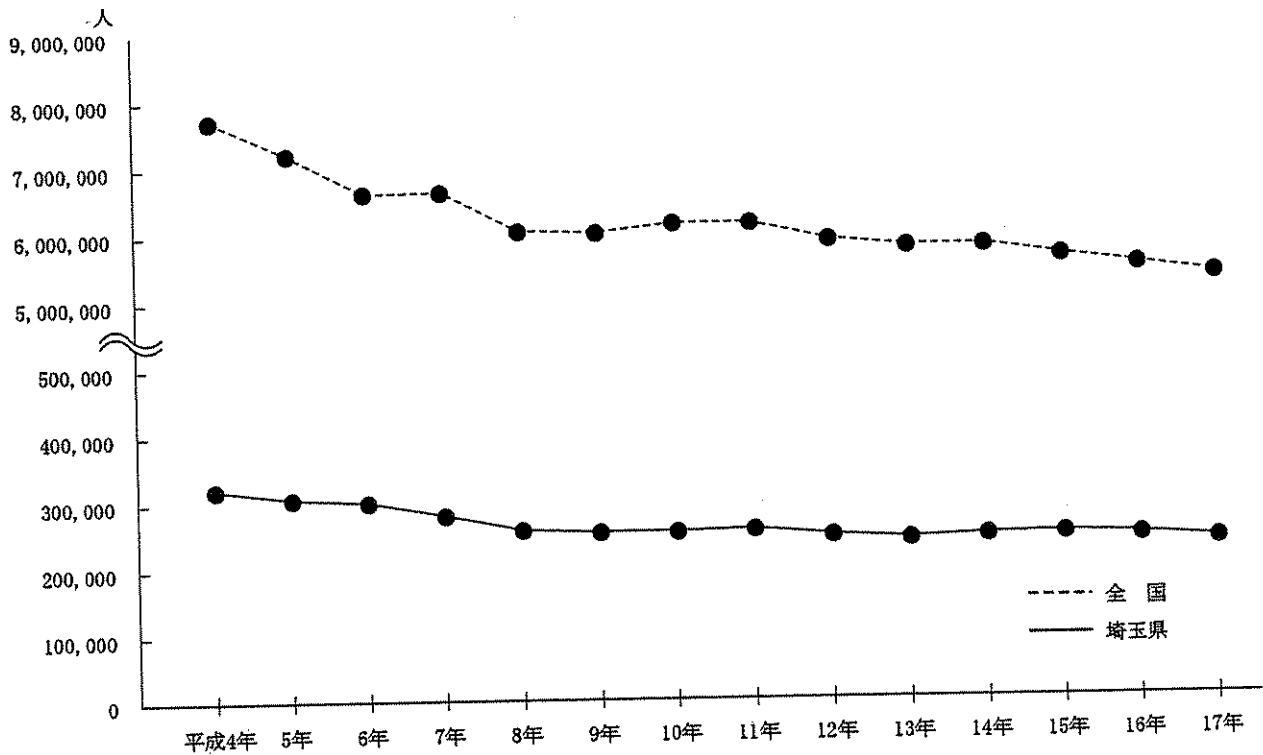
- 採血直後の飲酒は避けること
- 自動車などの運転をする時は十分な休憩をとること

< なぜ献血が必要なのか。まとめましょう。 >

資料1: 年別(県及び全国)献血者数の状況

埼玉県は献血者の総数は減少傾向にあります。昭和61年度から導入された400mL献血・成分献血を推進したことにより、400mL献血・成分献血の献血者数の割合は順調に伸び、献血者全体の80%前後となっています。

また、全国においても同様の傾向にあります。



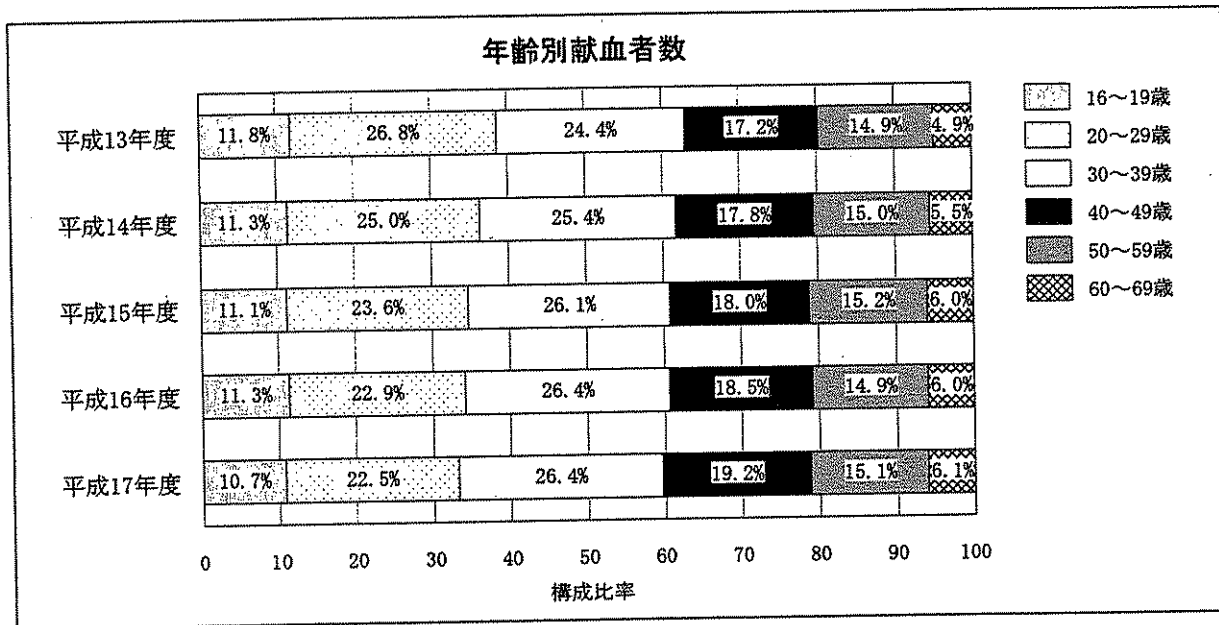
① 県及び全国の献血者数の推移

年	埼玉県		全国	
	献血者数(人)	対前年比(%)	献血者数(人)	対前年比(%)
平成4	319,035	94.4	7,710,693	95.2
5	305,123	95.6	7,205,514	93.4
6	299,295	98.1	6,610,484	91.7
7	279,926	93.5	6,298,706	95.2
8	256,296	91.6	6,039,394	95.9
9	252,330	98.5	5,998,760	99.3
10	252,348	100.0	6,137,378	102.3
11	255,410	101.2	6,139,205	100.0
12	245,303	96.0	5,877,971	95.7
13	240,860	98.2	5,774,269	98.2
14	244,667	98.2	5,784,101	98.2
15	246,326	100.7	5,621,096	97.2
16	243,470	98.8	5,473,140	97.4
17	236,221	97.0	5,320,602	97.2

資料2: 年齢別献血者数の状況

埼玉県の年齢別献血者数をみると、近年は20代の減少が著しく、一層、若年者層の確保対策の推進を図る必要があります。

また、献血可能年齢は、血小板成分献血を除き、平成11年4月1日以降、64歳から69歳までに引き上げられました。ただし、65歳以上の方については、健康上の理由から60～64歳の間に献血経験がある方に限られています。



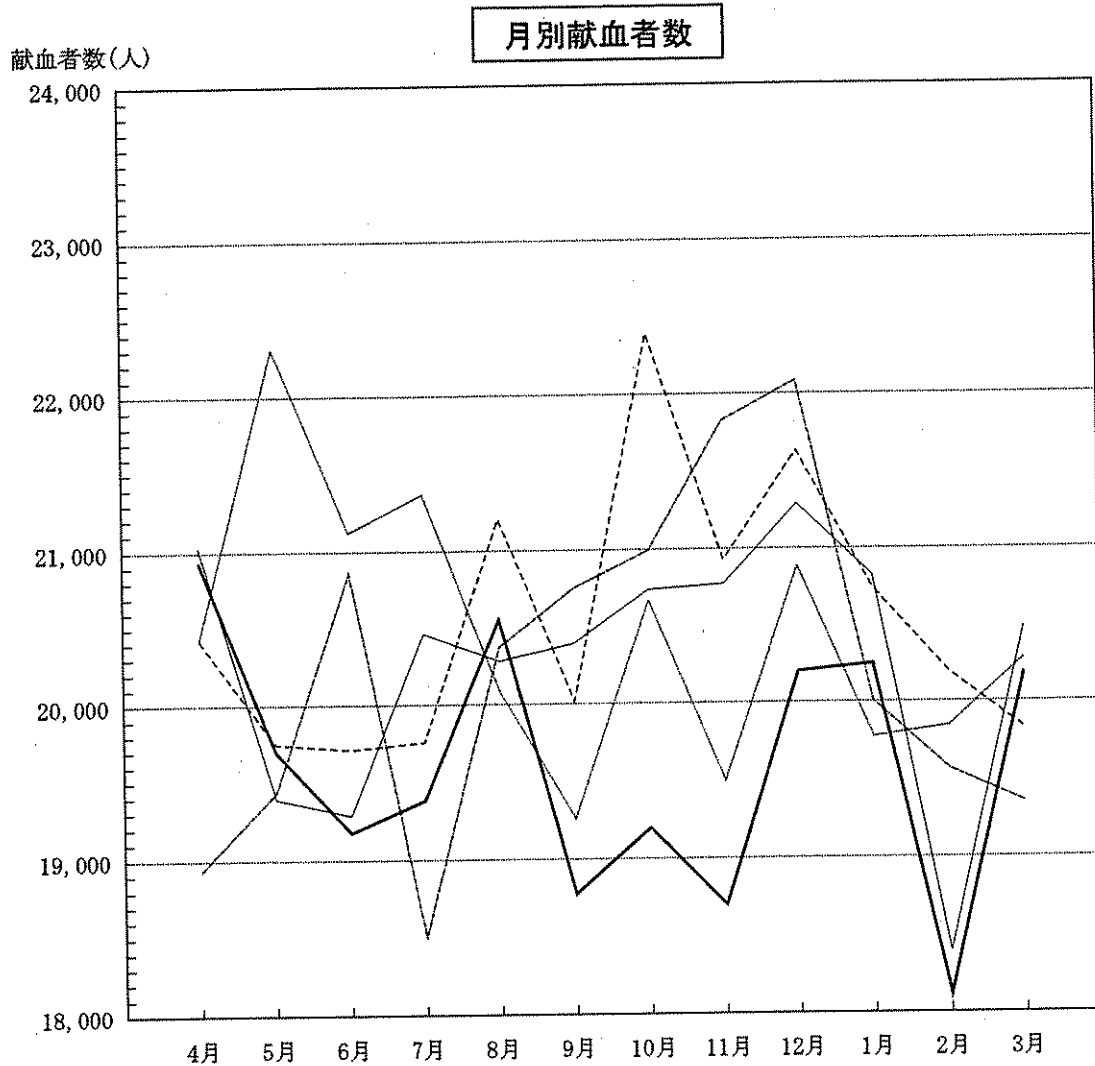
年齢別献血者数の推移

年度	方法別	16歳～19歳		20歳～29歳		30歳～39歳		40歳～49歳		50歳～59歳		60歳～69歳		合計	
		人数(人)	比率(%)	人数(人)	比率(%)	人数(人)	比率(%)	人数(人)	比率(%)	人数(人)	比率(%)	人数(人)	比率(%)	人数(人)	比率(%)
13	計	28,635	11.8	65,072	26.8	59,285	24.4	41,601	17.2	36,192	14.9	11,819	4.9	242,604	100.0
	成分	5,660	6.6	28,346	32.8	22,046	25.5	14,130	16.4	11,283	13.1	4,824	5.6	86,289	100.0
	400mL	6,539	6.2	26,005	24.8	29,151	27.8	21,531	20.5	17,553	16.7	4,211	4.0	104,990	100.0
14	計	27,957	11.3	61,550	25.0	62,643	25.4	43,997	17.8	36,864	15.0	13,501	5.5	246,512	100.0
	成分	6,093	6.8	27,150	30.4	23,409	26.2	15,405	17.3	11,714	13.1	5,505	6.2	89,276	100.0
	400mL	6,629	6.0	25,267	22.9	31,307	28.3	23,152	21.0	18,766	17.0	5,286	4.8	110,407	100.0
15	計	27,215	11.1	57,988	23.6	64,138	26.1	44,230	18.0	37,273	15.2	14,614	6.0	245,458	100.0
	成分	5,702	6.7	24,770	29.1	22,921	26.9	15,032	17.6	11,297	13.2	5,570	6.5	85,292	100.0
	400mL	6,315	5.8	23,438	21.4	31,857	29.1	23,089	21.1	18,853	17.2	5,938	5.4	109,490	100.0
16	計	27,555	11.3	55,708	22.9	64,265	26.4	44,913	18.5	36,150	14.9	14,682	6.0	243,273	100.0
	成分	4,806	5.7	23,484	28.0	23,069	27.6	15,940	19.0	10,911	13.0	5,557	6.7	83,767	100.0
	400mL	6,545	6.0	22,638	20.9	31,708	29.2	22,866	21.1	18,551	17.1	6,118	5.7	108,426	100.0
17	計	25,179	10.7	52,546	22.5	62,115	26.4	45,240	19.2	35,584	15.1	14,406	6.1	235,070	100.0
	成分	3,235	4.4	19,772	26.7	21,016	28.4	15,415	20.8	9,883	13.3	4,798	6.4	74,119	100.0
	400mL	6,832	6.2	23,111	20.9	31,697	28.6	23,583	21.3	19,043	17.2	6,385	5.8	110,651	100.0
17	計	15,112	30.0	9,663	19.2	9,402	18.7	6,242	12.4	6,658	13.3	3,223	6.4	50,300	100.0
	成分	15,112	30.0	9,663	19.2	9,402	18.7	6,242	12.4	6,658	13.3	3,223	6.4	50,300	100.0
	400mL	15,112	30.0	9,663	19.2	9,402	18.7	6,242	12.4	6,658	13.3	3,223	6.4	50,300	100.0

資料3: 月別献血者数の状況

月別献血者数をみると、例年12月から3月にかけて、風邪の流行などにより献血者が減少するため、輸血用血液が不足します。

このため、12月1日から25日までクリスマス献血キャンペーンを実施し、さらに、1月1日から2月28日まではたちの献血キャンペーンを実施して、広く県民に献血を呼びかけました。



[単位 人]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
—— 平成13年度	18,923	19,429	20,853	18,492	20,364	20,747	20,988	21,825	22,083	19,998	19,558	19,344
----- 平成14年度	20,418	19,743	19,703	19,749	21,200	20,011	22,392	20,924	21,627	20,737	20,189	19,819
—— 平成15年度	20,427	22,311	21,117	21,361	20,080	19,248	20,665	19,488	20,884	19,767	19,835	20,275
—— 平成16年度	21,025	19,387	19,278	20,456	20,275	20,387	20,733	20,769	21,283	20,819	18,380	20,481
—— 平成17年度	20,934	19,690	19,166	19,374	20,549	18,763	19,186	18,686	20,193	20,240	18,105	20,184